

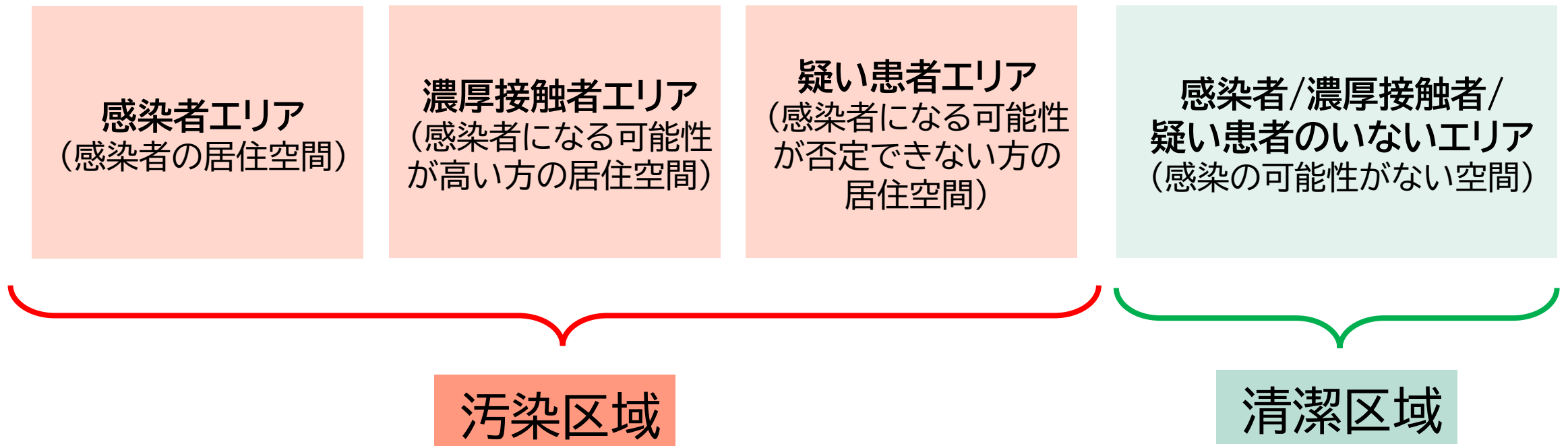
高齢者施設内で新型コロナウイルス感染症の 感染者・濃厚接触者・疑い患者が発生した際の 「ゾーニング」の考え方

本資料は、高齢者施設等で新型コロナウイルス感染症の感染者、濃厚接触者、及び疑い患者が発生した際に、施設内の感染拡大を抑えるために重要となる、「ゾーニング」の考え方の参考資料として作成しました。各施設の実情に合わせて御参照ください。

2021年1月22日

横浜市健康福祉局 健康安全課・高齢施設課

施設内で感染者/濃厚接触者/疑い患者が発生した場合、
速やかに各エリアを設定します
➡ 「ゾーニング」といいます



- それぞれのエリアは、だれが見てもわかるように、テープやついたてを用いて、明確に区分けします
- 感染者エリア、濃厚接触者エリア、疑い患者エリアは、それぞれ区別します

汚染区域(感染者/濃厚接触者/疑い患者のいるエリア)から、 清潔区域に出るときは、 スタッフは、必ず 個人防護具(PPE)を脱ぎます

汚染区域(感染者/濃厚接触者/疑い患者のいるエリア)



- ・サージカルマスク
(気道吸引をするときはN95マスク)
- ・長袖ガウン
- ・使い捨て手袋
- ・フェイスシールド
飛沫(しぶき)がかかる可能性があるときに着用
(常に着用する必要はありません)

脱衣ゾーン

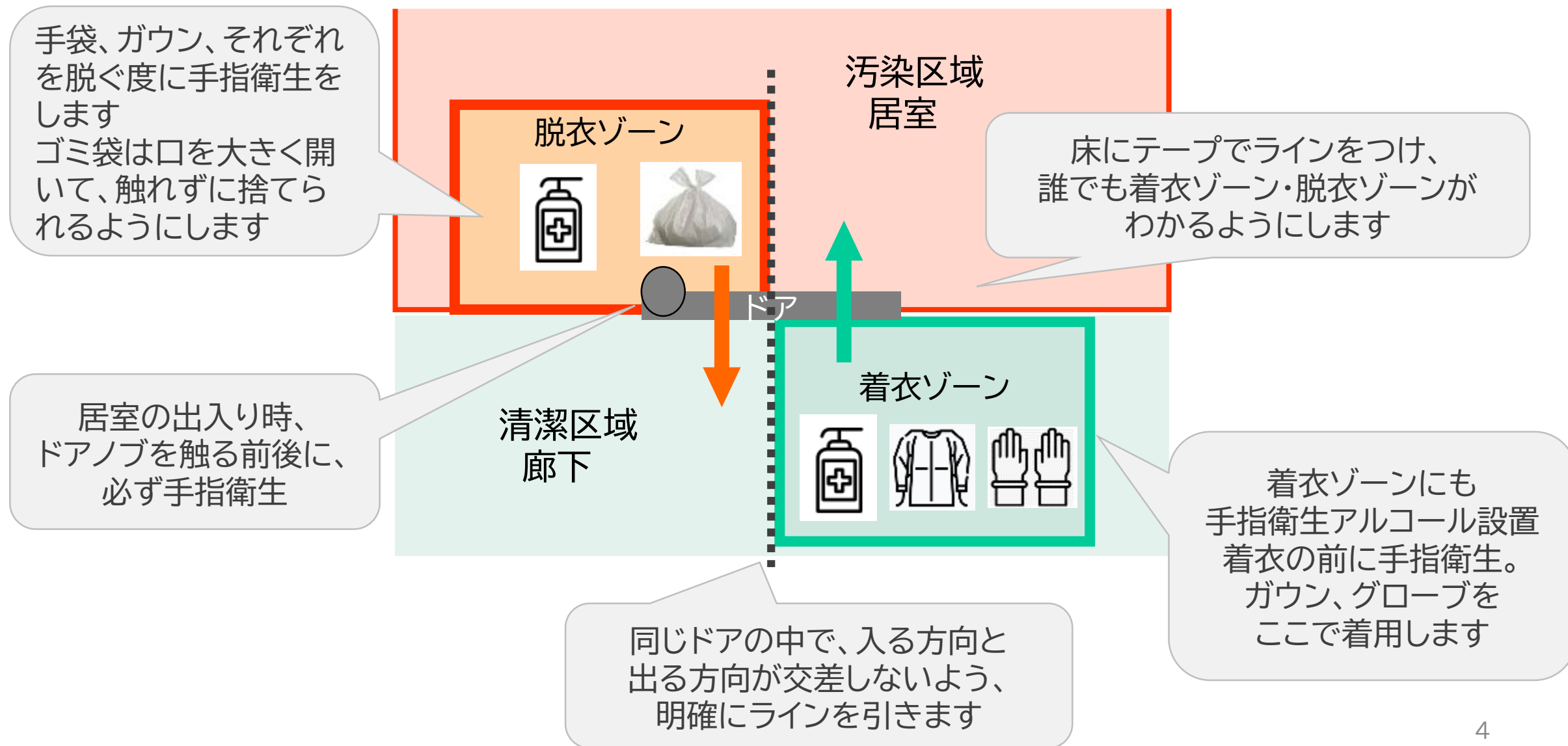


PPEは基本的に、
汚染区域で脱衣します

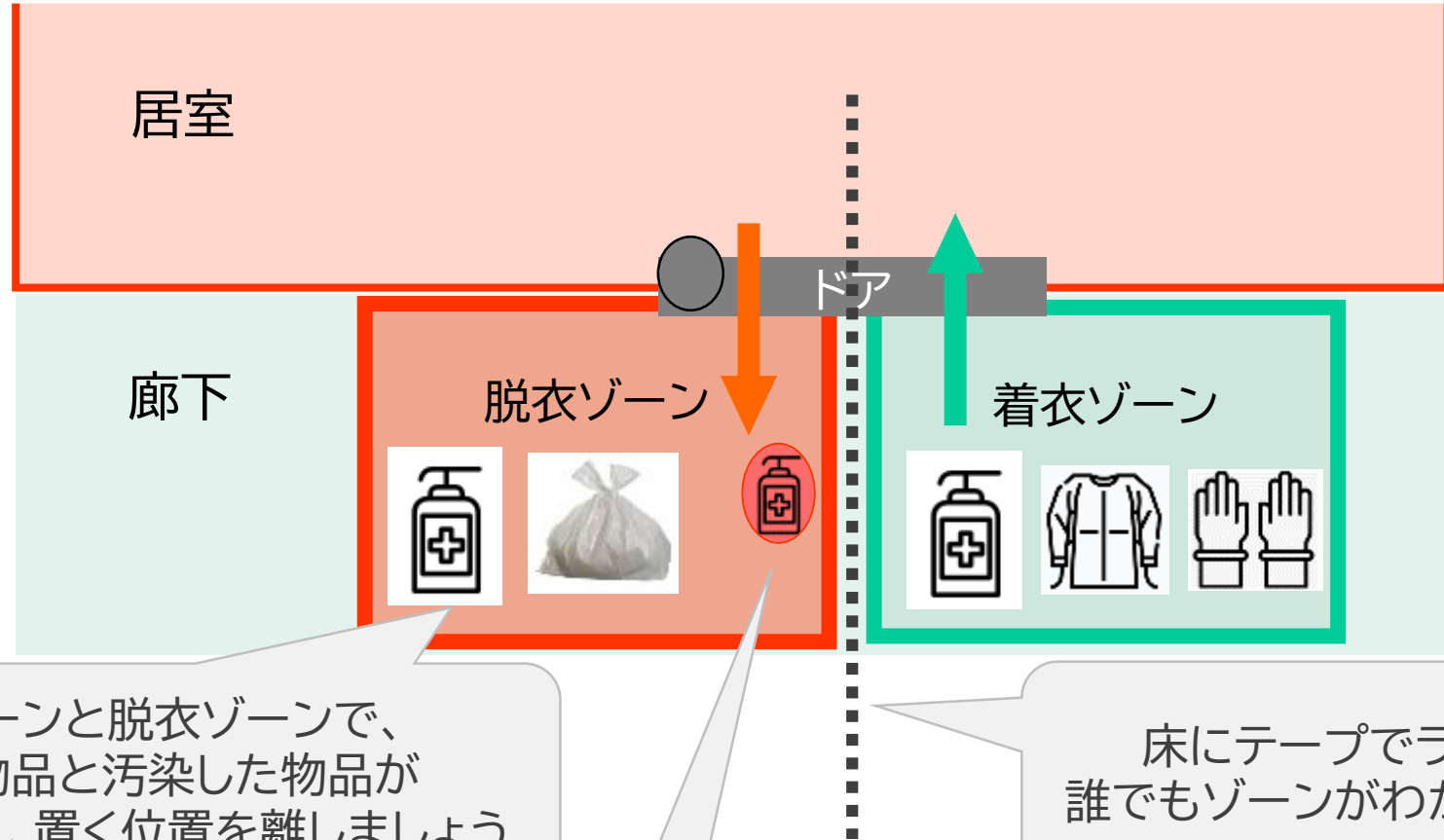
清潔区域



基本は、部屋単位でゾーニングを設定します



応用編： 居室内に消毒薬を置けない場合、 脱衣ゾーンを居室の外に設置します



着衣ゾーンと脱衣ゾーンで、
清潔な物品と汚染した物品が
触れないよう、置く位置を離しましょう

床にテープでラインをつけ、
誰でもゾーンがわかるようにします

居室内で手指衛生するための携帯用アルコール消毒薬(ガウンの上から持つ)を設置します
消毒薬ボトルやストラップの表面は汚染されていると考え、
未使用物品などの清潔な物品の近くに置かず、フックに掛ける等の工夫をします



➡ 「応用編」を実際につくってみると、このような形になります

居室内で使用する消毒薬は汚染区域に置きます

ごみ袋は、袋に触れずに廃棄できるよう、口を大きく開けて設置します



着衣、脱衣の手順がわかるよう、それぞれのゾーンに、手順を掲示します

清潔な物品と汚染した物品が触れないよう、置く位置を離しましょう

同じドアの中で、清潔区域と汚染区域が交差しないよう、入る方向と出る方向がわかるように、明確にラインを引きます
扉の向こうは、汚染区域です。

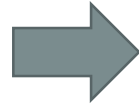


清潔区域でPPE着用をして入室します

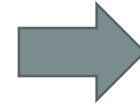


清潔区域でPPEを着衣した後、居室内で使用する消毒薬をつけます

消毒薬のストラップは汚染されているので、装着したあと、手指衛生をします



手指衛生をした手で、ドアに触れます



清潔区域から入室します

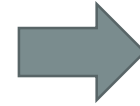
居室から脱衣ゾーンに出て、PPE脱衣を始めます



居室(汚染区域)から
脱衣ゾーンに出ます



最初に手指衛生をします



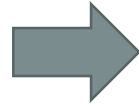
消毒薬を外し、
また手指衛生をします

このあと、脱衣を始めます

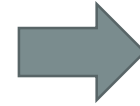
必ず、PPEを脱衣してから、清潔区域に出ます



PPEはゴミ袋に触れずに
廃棄します

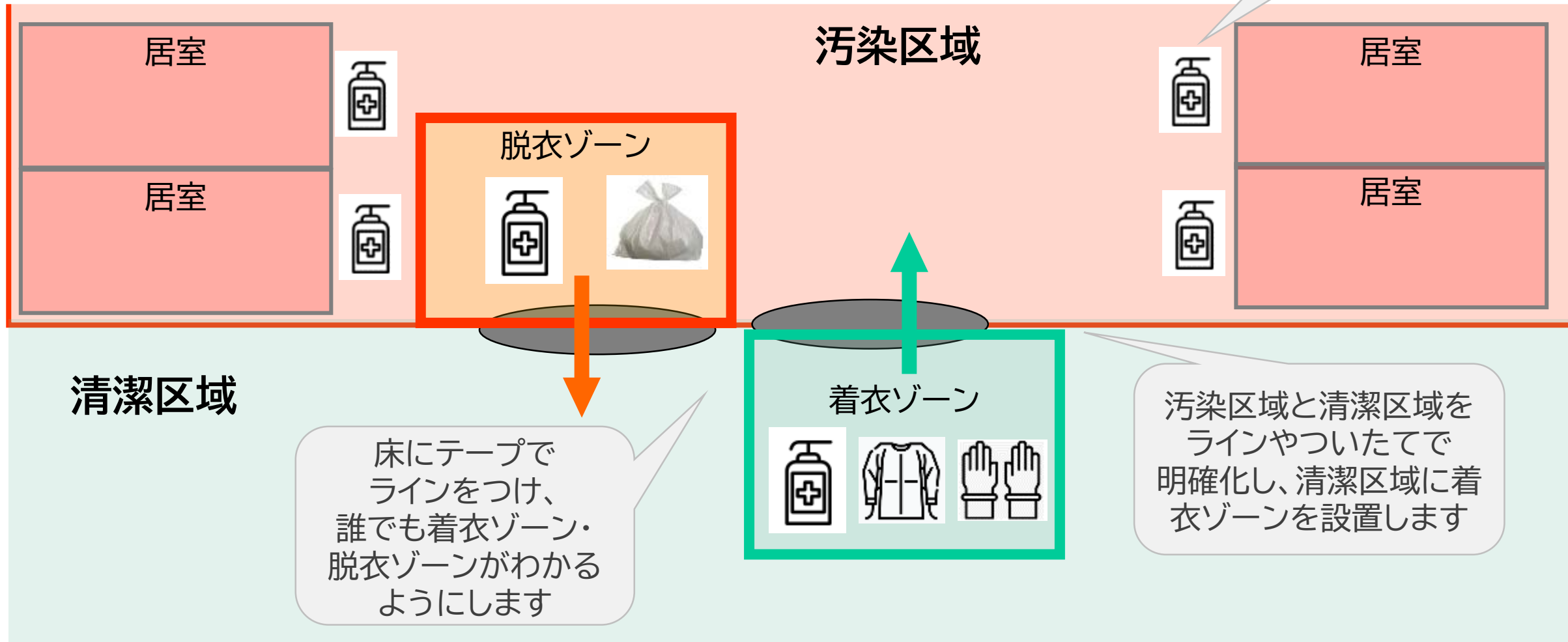


ゴミを捨てたあとも
手指衛生をします

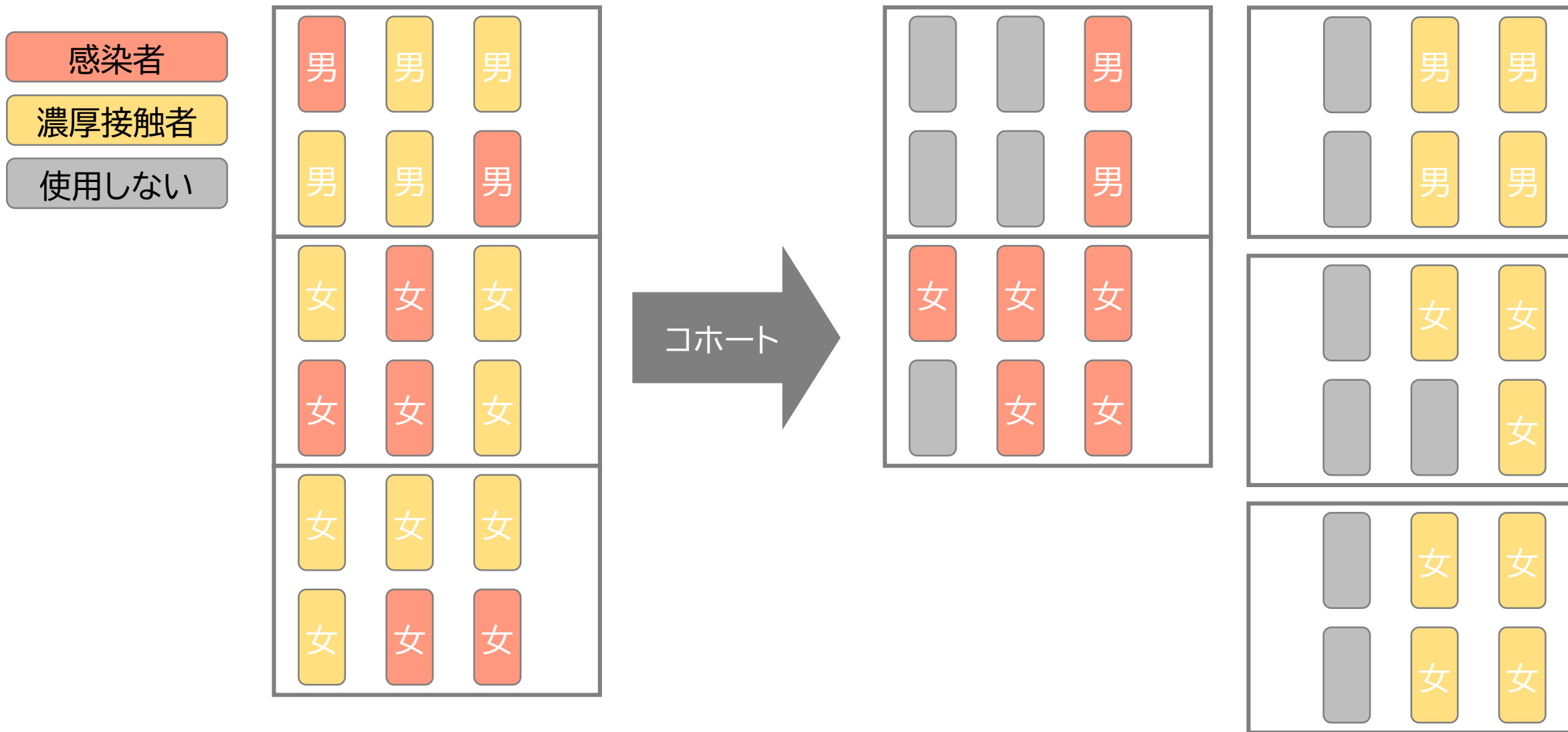


PPEが完全に脱衣できて
から、清潔区域に出ます

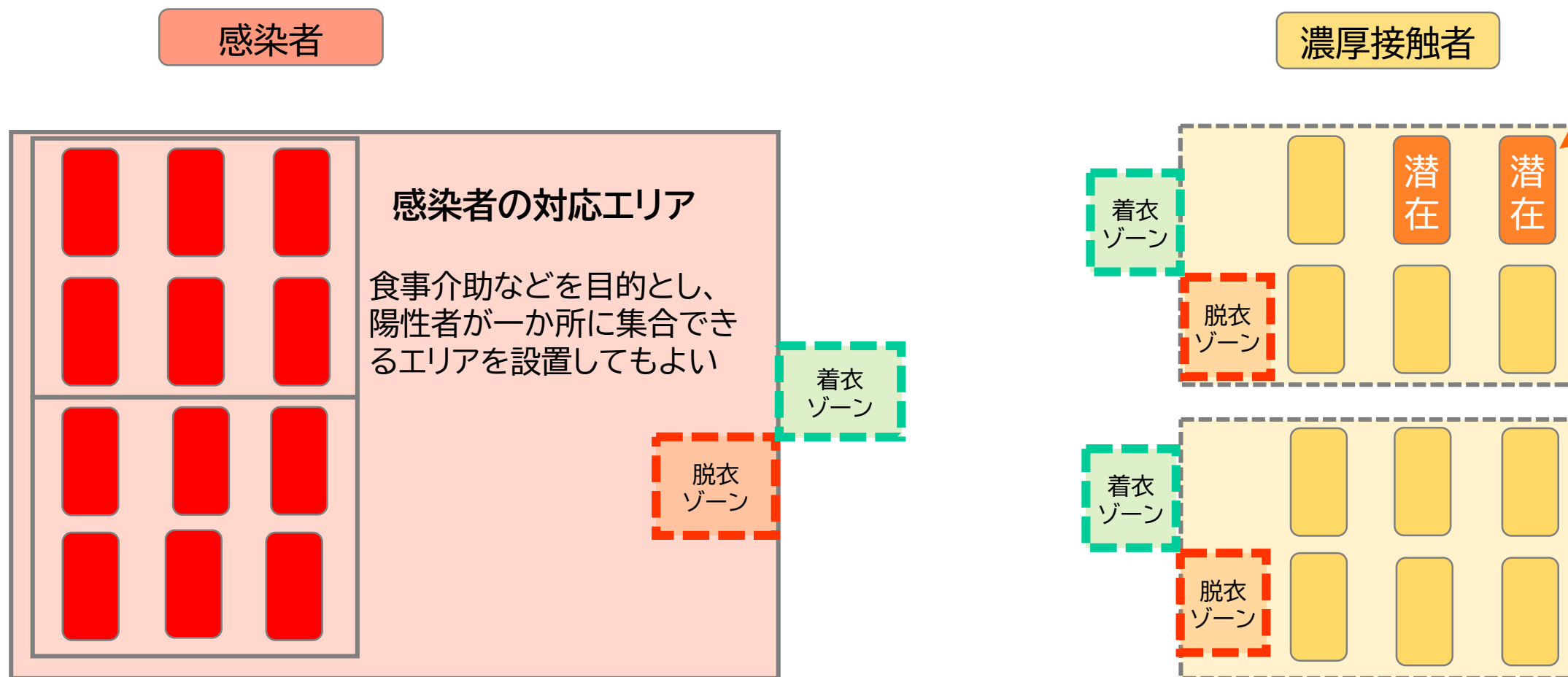
感染者数が多く、1部屋以上の管理が必要となり、
スタッフの部屋ごとのPPE着脱が現実的でない場合、
感染者の対応区域を廊下も含めて設定することを検討します



感染者が散在して発生した場合は、感染者を集めて 速やかに 感染者と濃厚接触者の部屋を分けます(コホート)

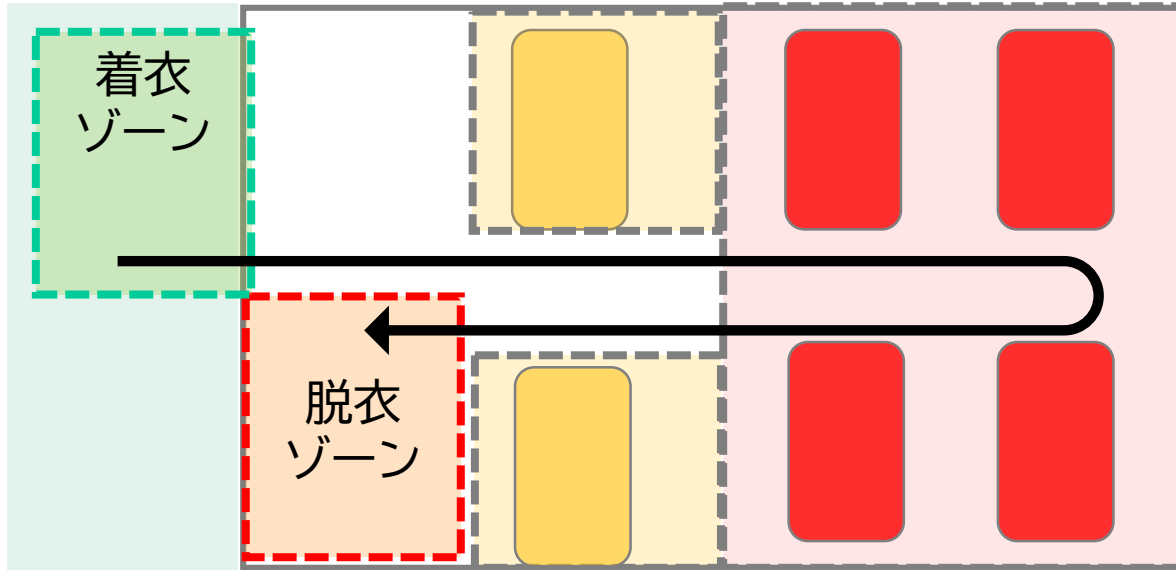


感染者の数が増えた場合、感染者同士の接触を許容します
濃厚接触者の部屋は、潜在する感染者(検査は陰性だった人)が、
別の部屋に感染を拡大させないよう、部屋単位で管理します

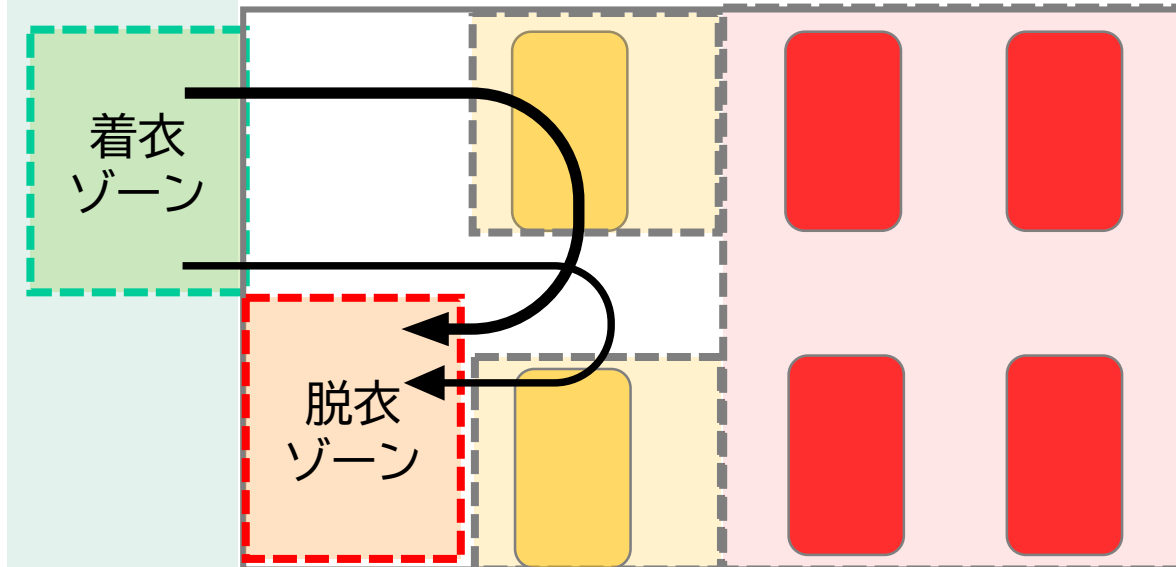


応用編：
感染者と濃厚接触者の部屋単位のコホートが難しい場合、
部屋の中で、区域を分けます(テープ、ついたて、カーテンを使用)

感染者の
対応時



濃厚接触者の
対応時



- 感染者・濃厚接触者が混在する病室は、「感染者対応時」と「濃厚接触者対応時」で、動線を分けます
- 「感染者対応」と「濃厚接触者対応時」の切り替え時に、脱衣し、室外で新たなPPEを着用します
- ベッド周囲のカーテンは、人の接触をできるだけ避けられるよう、足元のカーテンを開放するか、少なくとも、人が入れる幅を開放しておく等、工夫をしましょう
- 感染者・濃厚接触者が混在する病室は、できるだけ窓を開け、頻回な換気をしましょう

清潔区域、汚染区域 どの場面でも、 5つのタイミングでの 手指衛生を徹底してください



https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/78060/9789241503372_jpn.pdf?sequence=3&isAllowed=y

ご自身を守るために…



洗っていない手で、絶対に目・鼻・口を触らないようにしましょう
手洗いは、石けんまたはアルコール消毒薬で、
指先まで丁寧に 何度も行いましょう